

「ムササビの一日」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢の山荘裏庭は、カラマツの森になっている。カラマツに混じって、アカマツの巨木も数本ある。今の時期、地面にはたくさんの新しい松ぼっくりが落ちている。ムササビは松ぼっくりを好んで餌にする。鱗片の間の種子だけでなく、球果そのものもガリガリ食べて、最後は芯だけにしてしまう。恐らく、この場所を好むのは、この松ぼっくりの豊富さだろう。



巣箱はカラマツの幹に架けてある。本来はフクロウ用なのだが、私が一人で設置したので、高さが4mとフクロウ用には低く、なかなか営巣しない。そこで「空き家」になっていたこの巣箱を「ねぐら」にしたのだ。



昨日に引き続き、今日も早朝に巣箱に戻ってきた。気温は-0.2℃と低い。しばらく「尾」だけを巣箱に入れて、じっとしていた。何の行動だろう？



別のカメラを遠隔操作して、巣箱口を観察すると、ムササビは巣箱から半分身を乗り出して外の様子を伺っている。実にこの姿勢のまま、20分間もじっとしていた。もしかしたら寝ていたのかもしれない。



この日は午前中からよく晴れて、時折巣箱内にも太陽光が射した。ムササビは太陽光が苦手なようで、光線を避けるように、巣箱内を移動していた。



それにしても日中のムササビはよく眠る。早朝の5時20分頃から夕暮れの18時30分ごろまで、実に13時間以上、一回も巣箱から出ずに、眠り続けていた。これから夏至に向けて、もっと昼の時間が伸びるので、睡眠時間ももっと増えるのだろうか？